

海洋教育のデザイン

1. 学校名

大阪市立豊崎小学校

2. 活動テーマ名

『帆船で学ぶ海と人』

3. 実践の概要・ねらい

帆船での航海体験を通して、海洋リテラシーの向上および児童の人格形成を図るためのセイル・トレーニングプログラムを開発する。

帆船でのセイリングは、船や港、潮流や風、波など海洋を取り巻く社会的かつ自然的な環境要素との触れ合いが多く、海洋環境を多面的に見て、触れて、考えることができる。

船内での集団生活やチャレンジングな船内プログラムを通じて自ら考えて行動することの大切さや仲間意識を醸成し、連帯することの大切さを体感できるとともに、失敗を恐れずチャレンジする心を育てることで成長期の学童の人格形成に好影響を及ぼすことを検証し、体系化されたプログラムを開発する。

4. 実践計画

①テーマ・概要・活動計画、教科等との関連

<総合的な学習の時間>

○修学旅行にむけて

6月：「帆船みらいへ」について知る 6時間

7月：クラス旗・個人旗を作る 4時間

9月：環境問題「海ごみ」による海の生き物への影響を知る

10時間

10月：修学旅行の報告会 6時間

<理科>

2月：自然とともに生きる 8時間

②実践の評価について

(1)海への興味、関心が高まる（海洋リテラシーの向上）

日常生活において海や船に触れる機会が少ないなかで、事前学習および航海体験を通じて多面的に海に触れる機会となり、海への興味関心を高めることができたか。

(2)学習意欲の向上

実際に非日常的な環境において「見て・触れて・感じて・考える」機会が多く、また「体験学習サイクル」を採用することで、自ら学

ぶ意欲を向上させることができたか。

(3) 成長期の子供たちの人格形成

他者依存を克服し、他者との連携を図りながら自ら考えて行動するとともに、自らの限界に挑むチャレンジマインドを形成することができたか。

5. 今年度の実践

① 計画からの追加・変更点

海洋での大きな環境問題である「海ごみ」について実地で学ぼうと友が島へ上陸しビーチコーミングやシュノーケリングを行い、陸上水中から「海ごみ」の現状を学習した。

② 実践の成果

○以前は協力し合うという学級目標がありながら、「自分はこれだけやったのだから、あとの残りは別の子がやるべきだ」というような考えの児童が多かった。しかし、修学旅行以降徐々に、自分は早く終わったから手伝おう。助け合おうといった協力することを自分たちから行動できる児童が増えた。

○修学旅行中、水のありがたみを感じ、自発的に節水ができていた。また修学旅行から帰った後も節水について意識し、水道の閉ま

りが緩く水が少し漏れているところを見つけ、即座に蛇口を閉めるようになった。

③次年度への課題

修学旅行で学んだ「環境問題」のことを、6年生だけで終わらせるのではなく、全校への報告会を通じて、全児童へ行き渡らせて、普段の生活で実践し続けられるようする。

6. 主な連携機関及び内容

○一般社団法人グローバル人材育成推進機構

(1) 事前準備

担当教員、帆船運航者、アドバイザー（学識経験者）による準備会合を行い、実施手順や航程等について検討した上でトライアル航海を実施し、検討内容およびプログラムの効果について検証した。

(2) 事前学習

航行する海域の自然的・社会的環境について事前に学ぶとともに、船・帆船の仕組みについて理科の授業内容を踏まえたうえで事前に学ぶ機会を設定した。

児童間のコミュニケーションやグループでのチャレンジングな

取り組み姿勢が航海体験において効率的に引き出されるように、乗船前のグループ活動を行った。

(3) 航海体験

1泊2日の日程で操舵やマスト登り、セイルの展畳帆、食事片付け、振り返り、運動会、環境調査（生物や水質）等を実施した。

○NPO 法人インターナショナル・セイル・アンド・パワー・アソシエーション・ジャパン

友が島でのビーチコーミングやシュノーケリング活動のフォロー

6年生「帆船で学ぶ海と人」

【実践ねらい】

- ・自分で考え判断し、進んで行動しようとする態度を育てる。
- ・失敗を恐れずチャレンジする心を育てる。
- ・海洋での体験活動を通じて、環境保護に対する理解を深める。

○時数 6月～3月 41時間（総合的な学習の時間 20、理科 12、国語 9）

○関連 理科、国語

○目標 (1)「海を知る」活動を行うことで、児童は、海を身近なものとして捉え、「海の環境と人間生活との関わり」について、自身の課題として考えることができる。

(2) 体験活動を通じて、苦手なことにもチャレンジし、仲間との繋がりを大切にし、諦めずに取り組むことができる。

(3)「修学旅行報告会」を実施し、取り組み内容や体験を通じて、「海の環境問題」についてプレゼンテーションを作成し発表することができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動	1. 海を知る									3. 海とわたしたち		
探究的な活動	① 水について考えよう (6) 総合 ・「水」と私たちの関わりについて考える。 ・「海ごみ」による海の生き物への影響を知る。									① 「海ごみ」調査 (2) 総合 ・どんな海ごみがあったが分別しよう。 ・自分たちにできる「海ごみ」を減らす方法を考える。		
表現活動	② 海の環境問題 (6) 理科 ・海岸にはどんな物があるだろう。 ・なぜ「海ごみ」が存在するのだろう。 ・マイクロプラスチックについて調べる。 ・人間にとって「海ごみ」の影響はなんだろう。									② 修学旅行報告会 (9) 国語 ・体験を通じ海の現状を見て考えたことをグループでまとめプレゼンテーションを作成する。 ・どんな発表をすればみんなに伝わるだろう。		
	2. 海を学ぶ ① 船内活動 (6) 総合 ・様々な課題に対して、創意工夫しながらチームで取り組む。 ・自ら目標を設定して積極的に挑戦する。									③ 自然とともに生きる (6) 理科 ・水はどんなところをめぐっているかについて調べる。 ・わたしたちのくらは環境とどのようにかわり、どんな影響を与えているかについて調べる。		